

平成30年度 自己評価書

学校名	和歌山市立東山東小学校
校長氏名	山下真二
作成日	平成30年2月22日

1 教育目標

生きる力をはぐくみ、心身ともに健やかで、明日の社会を築く豊かな創造性と実践力を持つ子どもの育成。

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	ゆたかな心・健康な体	確かな学力
指標	○学校の様子がよく伝わった(保護者75%) ○地域とかかわった実践を全学級で実践する。 ○ホームページ閲覧数年間1万カウント	○学校が楽しい(児童90%) ○いじめの解消率100% ○新体力テストで全国平均を上回る。	○全国学力・学習状況調査においてすべての教科で県平均を上回る。 ○県学習到達度調査ですべての教科、学年で県平均を上回る。 ○わかる授業、児童が主体的に取り組む(児童80%)
重点目標【P】	○保護者や地域のニーズをふまえ、学校運営に生かす。 ○学校の様子を広く知ってもらうため、公開、発信を心がける。 ○地域の方々や外部講師とのふれあいの機会を増やし、子ども達の視野を広げ、成長を促す。	○考える道徳を通して豊かな心情を養う。 ○総合的な学習の時間・特別活動及び全ての教科を通して自己肯定感と、他者を思いやる心を培う。 ○健やかな日常生活を送ることができるよう、健康な体の育成を目指す。	○基礎基本の定着、言語活動の充実を図る。 ○学習習慣を確立し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、問題解決をしていく子どもの育成を図る。 ○自ら学ぶ学習を実践するための研修の充実を図る。
取組の状況【D】	・学校・学年だよりを通し、また、児童の活動の様子をHPに掲載して学校での取り組みを保護者・地域に公開した。 ・地域の方々の協力を得て、田植え・稲刈り体験や俳句教室・案山子づくり体験・わらざり作り体験・昔遊び教室を校内で開催し、交流を深めた。 ・上記の活動を協働意識をもって取り組めるよう事前打ち合わせや事後の反省を綿密に行った。	・保護者対象に「人権講演会」を実施して、人権意識に対する啓発を行った。 ・毎週、定期的に放課後バスケの練習を行い、子ども達にスポーツの楽しさを味わせた。 ・集会活動や遠足などで縦割り活動を活用し、リーダーシップや思いやりの心を養った。 ・基本的な運動の取り組み方について学習し、基礎運動力の向上を図った。	・「和歌山の授業 基礎・基本3カ条」を全教員に徹底させ、授業の充実を図った。 ・本校の研究について、必ず全員が研究授業を行った。さらにそれについて協議会を行い、各人の授業力アップを図った。 ・学習の手引きの活用とともに、中学年以上では自主学習ノートを活用し、主体的に学習に取り組む習慣を身に付けさせた。 ・難問クイズ等で考える楽しさを味わわせる場を設けた。
(評価結果【C】)	・全学級で地域の方々との交流授業を実施し、交流を深めることにより、学校と地域の連携がさらによくなった。 ・これまで更新されていなかった部分のHPを更新し、頻繁に情報を発信することにより、地域の方々にも学校の様子を知ってもらうことができた。 ・時間設定や進め方など交流の仕方についてまだまだ改善の余地がある。	・遠足等の縦割り活動では、上級生が下級生の世話が立派にできるようになった。 ・インターネットやSNSの普及に伴う人権学習を専門家に依頼し、保護者や児童に講演・授業してもらい意識喚起が行えた。 ・体力テストにおいて基本的な取り組み方や動きについて説明、練習することにより飛躍的に実施結果が上昇し、児童の自信につながった。	・全国や県に比べても、無回答率が非常に低く、最後まで問題に取り組む姿勢が身についた。 ・授業で「学びあい」の場が多く取り入れられるようになり児童の主体的活動が活発になってきた。 ・毎週の「うちどく」では非常に積極的な児童が増え、読書に親しむ習慣を身に着けた児童が増加した。
改善方法【A】	・来年度はさらに、地域の方々や山東まちづくり会との交流を増やし、子ども達に様々な実体験をさせたい。 ・本年度の活動を生かし、よりよくしながら継続するとともに、新しい形での交流の仕方を考えていきたい。	・「縦割り活動」や「みんな遊び」を実施して、より良い学級の雰囲気作りに努める。 ・特別な教科道徳について「考える道徳」の効果的な学習についてさらに研究を深める。 ・「フッ化物洗口」を継続して行い、児童の歯の健康の増進を図る。	・これまで以上に、授業に児童の「学びあい」の場をより多く設け、「アクティブ・ラーニング」を取り入れる。 ・難問クイズでは、もっと多くの児童が考え、表現する場として積極的に参加できるよう工夫したい。 ・「うちどく」表彰を継続し、より読書習慣を高めていきたい。 ・外に向けての公開授業も実施し、広く意見をとり入れたい。

3 その他の課題

・校舎や学校設備の老朽化のため、ドアの開閉、教室の照明の不具合が多発する。また、その都度、修繕しても、設備そのものが劣化しているため、根本的な解決になっていない。
・校舎等の雨漏りが改善されない。また、体育館の外壁の劣化や汚れが目立つ。
・カウンセリングができる場所の確保や万クラス増設の場合の教室の確保が困難である。
・通学路についても、狭いところや車の交通量が多い箇所もあり、民生・児童委員、育友会、学校職員等が定期的に通学路に立ち、児童の安全の確保を図っている。困難ではあると思うが、道路の拡幅や、それに伴う、歩道の設置が必要な箇所がある。